

## 前回会議での主な意見

## 【学校規模の基準について】

- ・上限数の理由についても、考え方の部分に反映していく必要があるのではないかと。
- ・現実的に校舎の最大収容可能学級数を考えた場合、中学校の上限については、24学級ではなく、21学級でいいのではないかと。

## 【学校配置の基準について】

- ・学校と地域との連携・協働を考えた場合、やはり校区の変更というのは、非常に難しい課題であると思う。

## 【学校規模適正化等検討に当たっての評価項目等について】

- ・教育環境における公共施設等について、具体的な施設(図書館等)を挙げておくべきではないかと。また、隣接、近接の違いが分かりにくいことから、具体的な距離若しくは時間等を明示すべきではないかと。
- ・評価における改善可能な課題と改善困難な課題について、各個々の評価との表現の整合性を検討しておく必要があるのではないかと。
- ・公共施設等が近接しているのであれば、改善可能な課題ではなく、望ましい状態ではないかと。
- ・学校運営(地域との協働・連携)について、0点が現状以下の頻度というとは、地域との連携が重要視されている中、現実問題としてあり得ないのではないかと。

## 【その他】

- ・評価における点数について、点数そのものに意味があるものではなく、比較することや評価していく過程において意味を持つものである。何点以下がダメで何点以上が良いというのではなく、あくまでも検討していく上での指標の一つという位置づけとなる。